

表紙(P1)―別掲

いわて未来研インタビュー

★ 中心課題は、「教育・文化・スポーツ・芸術、若者・女性
の活躍、高齢者パワーの活用—地球規模でみる日本の現状の視点も含めて」です。 ★

❁ 「岩手に生きる喜びや自信を
もたらし、誇りを回復する
新聞社」目指して ❁



東根 千万億（あずまね ちまお）さん
（岩手日報社代表取締役社長・主筆、常務取締役編集局長などを経て2014年から代表取締役社長、岩手県ユニセフ協会会長、1952年雫石町生まれ）

相原： 貴岩手日報社の新聞報道等を通じた社会に対するご貢献に改めて敬意を表します。私は常々、岩手の政治・行政・経済をも含めた広義の文化を牽引する役割を果たされていると感じ、感謝申し上げているところです。本年7月に社長・主筆名で「創刊146周年に想う」と題して熱い想いを語られました。詳しく伺いしたいと思います。ご対応に御礼申し上げます。

東根： いつの時代も変化してやまないもので



「自分自身の言葉で宇宙の不思議や研究の面白さを伝えたい」と意欲を語る特任記者(博士記者)の酒井大裕(だいすけ)さん(31)

すが、特に災害発生など日本全体が動乱状態にあるとさえ思います。こうした中、未知の世界に挑む創業者精神に思いを致し、無から有を生ずる気持ちで立ち向かっていこうと考えています。

この想いを主筆からの手紙という形にし、トップがどういう価値観で何をどう思っているかを示そうとしたものです。約18万人の岩手日報の愛読者の皆さんに肉筆の手紙を書くつもりで正直な気持ちを述べたものです。

♥ ♠ — 以下、質問部分を省略 — ♦ ♣

● 初の博士記者

♥ 新型コロナウイルスのパンデミック(世界的大流行)に苦しんでいます。昔の日本ならワクチンや薬を開発できたと思います。北里柴三郎や野口英世のような人材が居ればです。現在は欧米に大きく遅れを取っています。科学の基礎研究をおろそかにしてきたからです。その責

※ 本稿の画像は編集事務局挿入

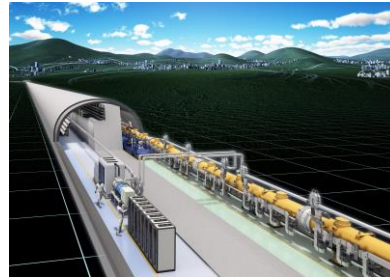
任はメディアにも当社にもあると思いました。学士、修士、博士まで進んでも安定した職につけない若手研究者が日本国内に推定1万人以上いるといわれます。海外への頭脳流出につながることであります。各種スポーツ選手が企業に雇用されるように、博士号を持つ次世代研究者を雇用する形での支援が求められていると考えています。

この考えの下に本年7月に国立天文台水沢VLBI観測所の元研究員でタイ国立天文学研究所所属の酒井大裕さん(31)を当社編集局の特任記者(理学博士)として採用しました。今後他の研究分野も視野に特任記者や新卒採用、社員の大学院入学などを通じて博士記者のさらなる雇用拡大を目指します。

● ILC 誘致を

◆ 素粒子物理学の大規模国際研究施設、国際リニアコライダー(ILC)の本県誘致推進キャンペーンを長年行ってきています。理由の一つには経済効果がありますが、私はそれ以上に素粒子物理学の最高の頭脳集団が岩手に入ってくる効果が大いだと思います。高度技術集団も家族もやってきます。岩手は中央に人材を吸い取られてきた苦難の歴史がありますが、これを転換できるチャンスです。海外から来る人々がもたらす異文化とのぶつかり合いが新たな文化を生み出すことにもつながり、青少年に与える影響も大です。

◆ 国際都市ジュネーブの郊外にある欧州合同原子核研究所(CERN)の世界最大の衝突型円形加速器を視察したことがあります。このCERNはドイツ、フランス、スペインなどが第二次世界大戦で血みどろの戦いをしたその平和のシンボルとして創られたと聞いたところです。岩手におけるILCは、世界の平和のシンボルであるユネスコの世界文化遺産



ILC 完成
イメージ
図

(C)Rey.Hori/KEK

KEK:高エネルギー加速器研究機構

「平泉」の地への立地でもあります。12世紀の「平泉の時代」、平和の仏国土を築いた本県です。今こそ平和のシンボルとしてのILC立地を実現し、真の復興(東日本大震災からの本格復興)を遂げるときではないかと思います。

● 救助犬育成へ

♣ 復興の象徴を目指して今年3月から災害救助犬育成キャンペーン「いわてワンプロ」を始めました。震災が起きた直後、スイスなどから空路日本入りする災害救助犬の姿が脳裏に焼き付いています。岩手にはもともと人と牛・馬が一体となって暮らす文化がありました。県内に民間の基地を作って育成し、いざ大災害が起きた時は、岩手から全国、また国外に災害救助犬を派遣できればと願っています。メディアの役割を果たしたいと思います。復興のシンボルともなるでしょう。

● 編集局国際部の始動

♥ 大谷翔平選手らの米大リーグでの活躍などスポーツの世界的な選手が続出したことに対応して本年度から編集局国際部が始動しています。現在欧米を中心に6人の特派員が取材に当たっていますが、創刊146年にして初の試みです。地方紙としてはめずらしいと思いますが、国際的な話題をダイレクトに伝えたいと考えています。東京の編集者の目線で情報が入ってくるのを待つのではなく、岩手の視点で直接

仕入れて報ずるのです。一つの反省点として、北欧の福祉について、民間がどんどん出向いて勉強しているのに地方紙は取材に行っていないということがあります。現地で取材し、地域にとって必要なことに対して視座を高め、地域の未来を提言・提案していきたいと願っています。

● 標題に記載した新聞社を目指して

♠ 私は、上述したように世界中を巡って視座を高め、見識を広げた編集記者や営業担当たちが、やがて県内各地で地域発展に貢献する力となることで、愛読者の皆さんに、岩手に生きる喜びや自信をもたらす新聞社でありたいと決意しています。

◆ 本インタビューの際に「誇りを回復する」を加えたのは、あのアテルイ・モレの時代に遡った想いからです。郷土の英雄アテルイ・モレは戦に敗れ、京都に連行されて処刑されました。この時、郷土の誇りを失わされたと感ずるのです。本年8月10日、岩手日報の

特別号外を岩手県と東京都で77万部発行しました。大谷翔平選手が、2桁勝利、2桁本塁打というベーブ・ルース以来の快挙を成し遂げたからです。大谷新伝説と言えるものであり、いわて県民の誇りの回復に寄与したと思います。

当新聞社としてこのような誇りの回復にメディアの立場で力を尽くしてまいります。

● 岩手日報総研の立ち上げ

♣ 地域づくり全般にわたって岩手県の未来像を提言する社内組織として、「岩手日報総合研究所」を本年10月立ち上げました。地元の実情を踏まえた「地域の知」を生かして政策提言に力を入れます。言論機関として政策提言もしてきたところですが、いわばもっと長めのものを出していきます。

● 新聞社の使命

♥ 新聞社は社会のドクターだと思います。地域を人体と見て、いかに健全な方向に導くかです。メディアは社会医として知力を磨く必要があります。圧倒的な努力が求められると思います。

❁ 新渡戸稲造が示した
日本人像と日本文化 ❁



藤井 茂 さん

(一般財団法人新渡戸基金理事長、元盛岡タイムス社社会学芸部長、著書多数、盛岡市)

相原：藤井理事長さんには平成29年の弊会



総会後にご講演頂きました。この度も取材にご協力いただき感謝いたします。

藤井：新渡戸稲造は、5千円札の肖像となっている割には国内で教えられていないのが残念です。たくさんの著述、発言記録などがあり

※ 本稿の画像は編集事務局挿入

ますが本日は、新渡戸稲造が示した日本人像と日本文化に触れてお話しできればと思います。

♥ ♠ — 以下、質問部分を省略 — ♦ ♣

● 著書「武士道」から

♥ 新渡戸は武士の家に生まれました。長じてアメリカ・ドイツに留学しましたが、日本人があまりにも知られていない、支那(中国)の東海にある劣等国人程度にしか思われていないことを大変残念に思い、何とか覆したいと願っていました。

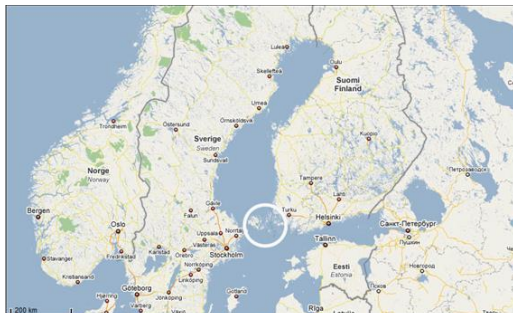
ある時、ベルギーのラブレー教授のところで、「日本人に宗教教育はあるか。ないとすれば何故あのような立派な行動ができるのか」と問われ、答えられませんでした。その悔しさがこの本執筆の原動力となりました。

♠ 新渡戸は言葉ではなく、真摯な態度でこれが日本人ということを示し続け、それを見た人々は感心しました。新渡戸は武士道のとおりに生きたと言えましょう。

♦ セオドア・ルーズベルト大統領は、この本に感銘を受けて30冊購入し、大臣や子息等に贈りました。この新聞記事を読んだ稲造の妻メアリーの両親は、当初結婚に反対していましたが、初めて認めたのです。

● オーランド諸島の帰属問題を解決

♣ 1920年代に北欧のスウェーデンとフィン



オーランド諸島(図中の白丸印)



オーランド切手—新渡戸裁定の時の会議風景

ランドの間でオーランド諸島の帰属問題が持ち上がった時、新渡戸は国際連盟事務次長として裁定し(1921年)解決に導きました。

その内容は、①オーランド諸島はフィンランド領とする②公用語はスウェーデン語とする③ 軍事等を除く高度の自治権を与える④非武装・中立地帯とするなどとなっています。基本となる精神は、世界は戦争に訴えずに話し合いで進めようというものです。

♥ 私は現地取材をした際、最初は両国とも不満であったが20～30年して良かったと評価されたと聞きました。

スウェーデンもフィンランドもこの裁定の際の基本的考え方を100年守り、NATO(ナト:北大西洋条約機構)の軍事同盟に加入してこなかったと考えております。まさにノーベル平和賞的功績であったと思います。

● 日本で初めての本格的な国際人

♠ 新渡戸は国際連盟で立派な日本人を見せるよう努めました。「仕事をしに来たのではない。日本人を見せにきた。」と述べて。

当時の国際知的協力協会で知的標準を創ろうと努めました。これが今日のユネスコの活動に繋がっています。

新渡戸は、世界に認められた、初めての本格的な国際人と言えましょう。

❀ 越し方を振り返り、
これからの課題に想う ❀



熊坂 伸子(のぶこ) さん

(前宮古市議会議員、元普代村教育長、元滝沢村助役、博士(経営学)、東北大学大学院修了、宮古市)

相原: 熊坂さんには、かつて滝沢村助役を務めた者同士というご縁で、この会報でも度々ご執筆、インタビューにご協力頂いて参りました。今回は女性活躍がテーマの一つですが、ご自身の軌跡そのものがそのモデルと感じます。無論そのテーマに関するご活動・お考えを併せて伺います。重ね重ねのご指導・ご協力に改めて感謝いたします。

熊坂: こちらこそ、お声をかけていただきありがとうございます。若いころは内気で消極的でしたが、いろいろ経験するうち、40歳ごろから、チャンスがあれば感謝して全力で取り組もうと考えるようになり、努力してきました。そんなお話ができればと思います。

❀ ♠ 以下質問部分を省略 ◆ ♣

● 子育て後、慶応大、東北大大学院へ

❀ 慶応は子育てしながら通信教育(学士入学)を受けました。いろいろな学びの形を経験した中でも、最も困難で、それだけに、



チャグチャグ馬コに乗って(滝沢村助役時代)
卒業できたことは、大きな自信になりました。

♠ 1997年、夫が宮古市長に就任したのを機に、財政や福祉を学ぼうと東北大学大学院経済学研究科に社会人入学しました。ここで学んだ自治体経営や政策評価の考え方が、それからの私の活動の基礎になっています。

● 滝沢村助役時代

◆ 2003年、研究の一環で訪問した滝沢村の柳村村長(当時)から声をかけていただき、助役に就任しました。2年間という短い期間でしたが、住民主体の総合計画づくりを任されて、職員と一緒に頑張りました。

♣ 官民協働の在り方について全職員と共に学び、総合計画づくりに反映させました。住民とともにゼロから作り上げる総合計画は、手間も時間もかかりましたが、一緒に作業をしていく中で、住民の方々と職員の間目に見えない壁が少しずつ取り除かれていく実感があり、完成をともに喜び合いました。

● 普代村教育長時代

❀ 2006年から2期8年、普代村教育委員会で教育長を務めました。教育行政も基本は同じで、保護者、先生、子ども達、地域の皆さんの声に耳を澄ませ、皆で目指す普代村教育ビジョン

を約2年で作り上げました。

- ♠ そのビジョンに従って、村立認定こども園や県内初の小中一貫教育を実現しました。自己肯定感が低い傾向がみられた生徒達も、数学等で県平均や全国平均を上回る結果を出せたりしたことで、生活全体に良い波及効果が生まれたと思います。

● お茶の水女子大大学院での研究

- ◆ 教育長を退任した後、現場で実践してきたことの理論的なまとめがしたくて、お茶の水女子大学大学院に研究生として入りました。

- ♣ 1年半の短い期間でしたが、小中一貫教育を国を挙げて採用しているフィンランドを視察したり、学会発表を行ったりして、『小中一貫教育のマネジメント』（第一法規）を上梓することができました。

● 宮古市議時代

- ♥ 東日本大震災後、故郷宮古のために何かしたいという思いがずっとありました。2017年に、市議会に5人の欠員が生じて補欠選挙が行われると聞いて手を挙げました。滝沢でも普代でも女性の議員がいないことが残念で、何人かに声をかけたことがあり、まずは自分がやってみよう。

- ♠ 補欠選挙の翌年に本選挙にも当選し、2期目で教育民生常任委員長を務め、市に核廃棄物を持ち込ませない条例を議員発議で提案・成立させるなど、政策提案に力を入れました。また以前に本誌でご紹介させていただいたように、県内女性議員のネットワークづくりにも力を入れました。

● 宮古市長選立候補

- ◆ 議員を続ける中で、市の課題がはっきりと見えてきました。このままではいけないという危機感から、市が変わるきっかけを



中学生とのワークショップ(普代村教育長時代)

作りたいと立候補の決意をしました。

- ♣ 結果は僅差（有効得票数の49.7%を獲得）での落選でしたが、少しでも市民の意識を変化させたのではないかと感じています。特に若い人が積極的にまちづくりにかかわっていることが頼もしく、希望を持って見えています。

● ブックカフェ「ことの葉」

- ♥ 誰もが安心してのんびり過ごせる場が作りたかったのです。高齢者向けや、小学生向けなど、毎月様々なイベントを計画して、こんな場所があることを皆さんにお知らせしているところです。

● 政策課題に思う

- ♠ 現在は何とんでもウクライナ紛争が心配です。世界は再び力によって支配されるようになるのでしょうか。この機に乗じて日本も戦前のような機運になるのではないかと心配です。戦争に勝者はいない、みんなが不幸になります。日本が取り組むべきは軍備増強ではなく、ゆるぎない平和主義を貫くことだと思います。

- ◆ 政治の中心は「ヒト」であることを、国も地方も忘れないで欲しいと思います。政党の利益より国民の幸せを。選挙に勝つことよりも、市民の笑顔が増えることを目指していただきますようにと願っています。

❁ 県教委の学力向上対策 ❁



遠山 秀樹 さん
(岩手県教育委員会事務局学校教育室
首席指導主事兼学力向上担当課長)

相原：県民の関心が高い学力向上対策については、以前この会報でも取り上げたことがあります。改めて最新の施策をお伺いします。ご協力に感謝します。
遠山：県教育振興計画に基づき、確かな学力の育成についてお話して参ります。教職員一丸となり取り組んでいます。

❖ ♠ 以下質問部分を省略 ◆ ♣

● 確かな学力育成プロジェクトの推進

❖ 学力向上に係る内容は県教育振興計画において「確かな学力の育成」として位置づけられております。

♠ その推進プロジェクトでは学校の組織的な取組みを土台として進めることとしています。校長のリーダーシップの下で、校内の運営体制を構築し、学校が設定した具体的な目標の達成に向けて主任層が効果的に機能・連携しながら全職員で継続的に検証改善に取り組みます。

◆ 目標を「つまづきを生かした児童生徒一人ひとりの資質・能力の向上」としています。中味としては、☆学びを人生や社会に



「確かな学力育成プロジェクト」概念図

生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養、☆生きて働く「知識及び技能」の習得、☆未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」の育成としています。

● 2022 年度全国学力テスト

♣ 2022 年度全国学力・学習状況調査(全国学力テスト)が小学6年と中学3年を対象に本年4月に実施されました。国語、算数・数学、理科の3教科を行いました。本県公立学校の平均正答率は、小中ともに国語が全国平均を上回ったものの算数・数学と理科では下回りました。しかし数学などの全国との差は次第に改善し縮まってきています。

一方、同時に実施した質問紙調査では、「意欲を持って取り組み、自ら進んで学ぼうとする」、「授業で自分の考えを深めたり、広げたりしている」、「将来の夢や目標を持っている」などの項目で、本県は小中とも全国を上回る割合となっています。

● 令和の日本型教育の推進

❖ 本年1月に中央教育審議会が、「令和の日本型教育」を打ち出しています。個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」を授業改善の視点として資質・能力の育成を目指します。

※ 本稿の画像は編集事務局挿入

❀ 県教委のいじめ問題等対策 ❀



千田 幸喜 さん
(岩手県教育委員会事務局学校教育室
首席指導主事兼生徒指導課長)

相原: いじめ・不登校などの問題は教育にとっても最重要課題の一つだと思います。教職員のご努力に感謝しつつ取組状況を伺います。ご多忙の中のご対応に御礼申し上げます。

千田: このような課題には、幅広い県民の皆様のご理解・ご協力が必要であり、貴会報で取り上げて頂き感謝します。

♥ ♠ 以下質問部分を省略 ◆ ♣

● いわて県民計画での位置づけ

♥ いわて県民計画(2019~2028)の第1期アクションプランの中で「いじめ問題などに適切に対応し、一人ひとりがお互いを尊重する学校をつくります」の基本方向を定めており、さらに次の3点の推進方策を示しています。

① いじめ防止対策の推進といじめ事案への適切な対応 ②児童生徒に寄り添った教育相談体制の充実等による、不登校対策の推進 ③児童生徒の健全育成に向けた対策の推進

● いじめ問題への対応

♠ 基本方針を定め、「学校いじめ対策組織」



を中核とし、組織的にいじめの未然防止・適切な対応に当たることとしています。

◆ いじめが起きにくい学校・学級風土づくりとして、心の居場所の提供、絆づくりの場の保障などに取り組みます。

♣ 早期発見と解消に向けた適切な対応として、ささいな兆候であっても、いじめではないかとの疑いを持って、早い段階から複数の教職員で的確に関わる等の取組を行います。

♥ 教職員の資質能力向上を図る校内研修の充実を図ります。

● 不登校対策の推進

♠ 不登校の兆候からの初期対応を含め、児童生徒個々の状況に応じた支援を行います。

◆ 教育相談担当者(コーディネーター)を中核とし、スクールカウンセラー等と連携した相談体制を整備し、支援体制の充実を図ります。

● 健全育成—情報モラルに関する指導

♣ インターネットや SNS の利用、携帯情報通信端末の所持が進む中、情報モラル教育の充実を図ります。

♥ 児童生徒を被害や有害情報から守るための活動を保護者や地域、関係団体等と連携して取り組みます。

● 24時間子供 SOS ダイヤル紹介カード

♠ 子ども達が、不安や悩みを一人で抱え込まないよう、このカードを作成・配付しています。

※ 本稿の画像は編集事務局挿入

石柱記者の取材レポート

✳ このコーナーは、元報道記者

石柱有慎さん(会員、編集スタッフ)の会報テーマに沿った現場取材レポートです。

◆ 地域に開く運動部活動 ◆



岩手県体育協会
副会長兼理事長
平藤 淳 さん

運動部活動を学校単位から地域単位に変えていく、地域移行の取り組みがいよいよ来年度から中学校で本格化する。青少年のスポーツといえば、学校での「部活」が普通だったのが様変わりしようとしている。少子化や教員の多忙化などが背景にあるが、本来、地域社会で世代を超え、生涯にわたり多様なスポーツに参加することは理想の姿と言える。とはいえ、長年にわたり定着してきた「部活」がスムーズに地域での活動に移行できるか課題も多い。移行後の主な受け皿となるのは総合型地域スポーツクラブとされている。クラブの運営を支援し、その拡充を担うのが日本スポーツ協会であり、各都道府県の体育協会、スポーツ協会だ。岩手県体育協会の平藤淳副会長兼理事長（66）に話をうかがった。

総合型地域スポーツクラブは、1995年から創設が始まり、県内には今年4月現在、26市町村で56クラブが活動している。さらに2町村で3クラブが設立準備中で、5町村（西和賀町、軽米町、山田町、大槌町、九



戸村）では未設立という。生涯スポーツ社会実現のために、地域住民が主体的に運営、管理するものとして設立が進められてきた。

にわかに部活動地域移行の受け皿として期待されているが、設立して間もない、あるいはこれから設立されるような地域で、スポーツクラブ側は部活動の生徒たちをどのように受け入れるのだろうか。また、施設や指導者の面などで対応可能なのだろうか。

「受け皿と表現されるが、あらゆる世代が参加するという意味では、そこに生徒たちが入ってくことで、総合型地域スポーツクラブが本来目指していた原点に立ち返ると考えた方が良い」と平藤さんは言う。県立高校長の経験を持ち5年前から現職にある平藤さんは、学校という枠の中、あるいは学校教育の延長線上で捉えられていた青少年のスポーツをもっと開かれた形で捉えなおすことは好機と見る。

施設の面では、地域で自由に利用できる施設は限られていることから、当面、学校にあ

※ 本頁の画像は編集事務局挿入

る既存の体育施設・設備をそのまま利用することが現実的と考えられている。ともすれば、学校がスポーツから手を引くような印象を持たれがちだが、平藤さんはその意味からも「部活動の地域移行は、学校から部活を外に出すのではなく、学校を地域に開くという考え方で取り組むべきだ」と語る。学校の施設を使うのは従来と同じだが、外部の指導者が入ったり、生徒自身が地域スポーツクラブの会員になったりする。心配するほどの劇的な変化ではないかもしれない。

もう一つの大きな課題である指導者の確保だが、特に地方の場合、学校の教師以外で指導できる人材がどれだけいるかという心配がある。しかし、これも教員がまったく部活動にかかわらないわけではないし、これに加えて地域スポーツクラブに所属する指導者により、むしろ指導体制が充実すると見ることができる。

平藤さんは「体育協会としては以前から地域スポーツクラブの指導者の資質向上に取り組んできており、これまで以上に指導者の掘り起こしや養成に力を入れていかなければならない」と、指導者向けの講習会開催、資格取得の推進などが重要となっていくことを強調する。裏返せば、これまでは資質や経験が不足した教師でも学校内の事情によって指導に当たらざるを得なかった実態を改善することにもなる。

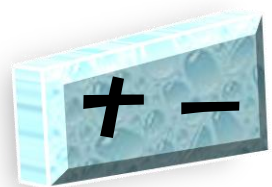
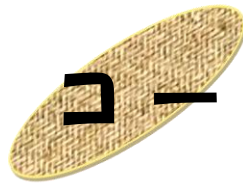
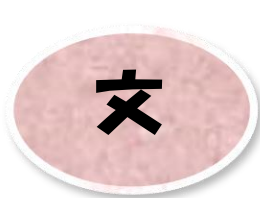
設備、指導者以外の課題も多い。これまで学校、教員が受け持ってきた安全管理面の責任はスポーツクラブなどの運営主体も担うことになる。各クラブはスポーツ指導だけでなく、組織運営もしっかりしたものが求められる。指導者への謝礼など金銭面では保護者の



負担が増す可能性もある。各種大会のあり方も変わってくるだろう。現在は学校対抗で勝ち上がるトーナメント形式が一般的だが、クラブ単位であれば、リーグ戦が主体になるかもしれない。あるいはそれが同時並行的に開催されることも考えられる。

部活動の地域移行に向けては、国の有識者会議が今年6月に提言をまとめており、その中では実施主体となる団体の充実、指導者の資質向上、大会のあり方の見直しなどを指摘している。これを受けてスポーツ庁は来年度の概算要求に計102億円を盛り込んでおり、地方自治体にも相応の取り組みを求めている。

さまざまな課題は初めてのことだけに、過渡期に当たる生徒たちには負担や不満も生じるかもしれない。今後、自治体、学校、各種スポーツ団体の間で協議を重ね、一つ一つ解決していくほかはない。平藤さんは「多世代、多種目、多志向にわたって自由にスポーツに取り組める環境づくりは時代の要請でもある」という。その意味で部活動の地域移行は、単に「部活が変わる」とだけとらえず、全ての人がスポーツに親しむことを可能にする大きな改革の始まりと考えたい。



俳句みらい

共鳴句鑑賞

俳人(会員)

岩渕

正力



また一つ空地となりて秋の風

◎秋出水丹精込めし田も畑も

休暇果つ真顔に戻る帰着駅

評 今年是全国各地で記録的な豪雨に依る甚大な被害が発生した。丹精を込めた稲に野菜に果樹に。やり直しが効かない。俳句では単に出水と言うと夏の季語になるので、ここでは秋出水としている。収穫の秋である。

種田

勝



裏戸開け秋思の雲を見つめけり

◎合掌の墓前に飴玉秋の風

ぐつぐつと新米躍る炊飯器

評 飴玉だから子供と短絡的に決めなくてもいいだろう。ばあちゃんも飴が好きだったとか。実際とは違うかも知れないが、私なら下五を秋彼岸としたいところだ。

◎虫の音を聞いて夜中の力抜く

青首の大根じつと見つめいる

額縁の亡母の遺影にマスク無し

評 作者は日中は店番で忙しい方だ。夜もあれやこれやと思いつく事がありだろう。ふと気が付くと虫の声。心がなごみ力を抜く。俳人ならではの心地。

◎裏山は先祖の墓や色鳥来

星月夜無音の音符ちりばめて

幾礎石残し浄土や水の秋

中村 セイ子



高橋 小秋



鈴木 正子



評 旧家では居久根に私葬地を持っているところが多い。江戸期の墓が多いようだ。色鳥来がおぞましくなりそうな中身をあかくしてくれた。

土砂降りやまるまるたる茗荷の子
透明に響く南部の鉄風鈴

佐々木 田三男

◎服薬の五種類いのち大根蒔く

評 五種類とは何の薬なのだろうか。私はこの間、三種類の薬の中から「アルコール性肝機能障害」の治療薬を外してもらったが。次は「大根引く」の句に期待。



一本は威嚇の構へ鶏頭花

衣川 しづか

七輪にちひさき扉秋刀魚焼く

◎少しづつ椅子を寄せ合う良夜かな

評 ソーシャルダンスと言う言葉があるようだが、どうにも話しがとどかない。高声を立てたくないし、少しづつ椅子を寄せ合う。「月がとってもきれいな」



縁側の夫のハーモニカ夜の秋
秋嶺や夫再検査の今朝の窓
◎名月や団子つまみに夫と酌む

評 回想の句だろうか、今の句だろうか。ご主人が体調をくずされたとか。月を見ながら飲めるぐらいに回復されたのだろうか。団子がつまみとはネ。

渡辺 タエ子



括られて首も振れずに秋桜

浜菊の咲けば聞こゆる遠き波

◎無人駅鉄道草にひとりごと

評 鉄道草はヒメムカシヨモギの別称とある。私には見たことがあるかどうかわからないが、一句には俳味があつておもしろい。陸中折居駅にもあるだろうか？

菅原 節香

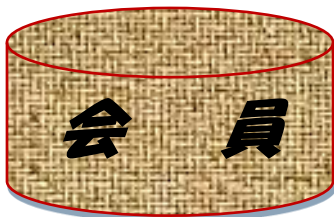


近 詠

馬頭観まつり地べたに栗つまみ

正力





◆ 他愛もない日常こそが
幸せなのかも ◆

後藤 功賢
(団体職員、
奥州市江刺)



私は、妻と3人の子共と暮らしており、農業関連の仕事をしております。

【子供を通じ学び大人になれた】

誰もが子供時代を過ごしてきました。急に大人になれた人は誰もおりません。

子供は「〇〇が欲しい。〇〇がしたい」親は「宿題終えたの？片付けしたの？」

子供はわがままし放題、親はそれを注意する。今も昔も変わらない光景です。

今年は子供を誘い、または子供から誘われて様々な遊びを満喫しました。

春はタケノコ掘り・山菜取り、夏はカブトムシ・クワガタ・ザリガニ取り・魚釣り、秋はイナゴ取り。子供は好奇心旺盛で、草むらや畦畔を駆け巡り、危険な事をやりがちになり、知識を得ると自慢げに説明をしてくる。

日々の子供の成長を感じつつ、子供を通じ親として、そして大人としての対応を行い、私自身も親になり成長させられているのだと痛感しております。



【親子マラソン 2km】

中学・高校と陸上部に所属し、中長距離の選手で、毎日とことん練習しておりました。

今春、小学校に入ったばかりの子供とマラソン大会に参加しました。

「最初から急いでも後から疲れて走れなくなるよ。(イソップ童話の) 兎と亀だよ」と陸上経験者として、この上ない的確なペース配分を教えました。

しかし、子供は私の助言を全く聞かずに走り、私が必死で追いつくとケタケタ笑いながらまた引き離す。ゴールは親子で手を繋がないといけないのですが、とにかく引き離す。

私はもう追いつく力もなく歩き、恥じらいもなく子供の名前を大声で叫び、その場で待ってもらい、ゴール手前でやっと手を繋いでゴールをしました。ほっとしました。

子供は「お父さんは走るのが遅い」と怒り、大好きな母の元に猛ダッシュで向いました。

前述で子供の日々の成長を感じつつ、私自身も成長していると言いましたが、この場合の私は完全な運動不足による退化です。

こんな他愛もない日常こそが、幸せである事をもっともっと感じられるように、広い心で子育てを満喫したいと思ったエピソードです。

※ 本稿の画像は編集事務局挿入



講演会 ご案内



日時

令和4年12月3日(土)午後2時30分から4時まで

PM 2:30~2:40 開会行事(10分)

PM 2:40~3:40 講演(60分)

PM 3:40~4:00 質疑(15分)、閉会行事(5分)

場所

プラザイン水沢

(奥州市水沢佐倉河字後田 29 電話 0197-25-8811)

講演会

講師：岩手県立大学特命教授

黒岩 幸子(ゆきこ) 氏

演題：ウクライナ侵攻が続くなかで
考える日ロ関係



参加者

参加希望の住民、会員。入場無料

新型コロナウイルス対策

- ①検温の上マスク着用、手指消毒で入場 ②換気徹底
- ③座席は適正間隔で④演壇付近にアクリル板設置ほか

その他

今回は交流会(懇親会・食事会)はありません。

申込み

同封の様式により、ファックス、郵便、電話、メール等により、
11月26(土)までに参加申込みください。会員以外の方のご参加歓迎!!

米 ひとめぼれ ささにしき りんご ふじ なし 長十郎

菅野 苹果
地方発送受承ります

園主 菅野 耕悦

岩手県奥州市江刺 愛宕字池向177番地
TEL 0197-35-1634
FAX

胆江地区では最多車種の教習が可能です

— 教育訓練給付金制度がご利用頂けます —

無事故を願う親の心で教習する

おおがね 大鐘の **水沢自動車学校**

0120-25-5158

水沢公園南 奥州市水沢大鐘町3丁目1番地
<http://www.mizusawa-ds.com/>

大型二種・普通二種・大型・中型・準中型・普通・けん引・大特・二種(大型・普通・AT普通) フォークリフト